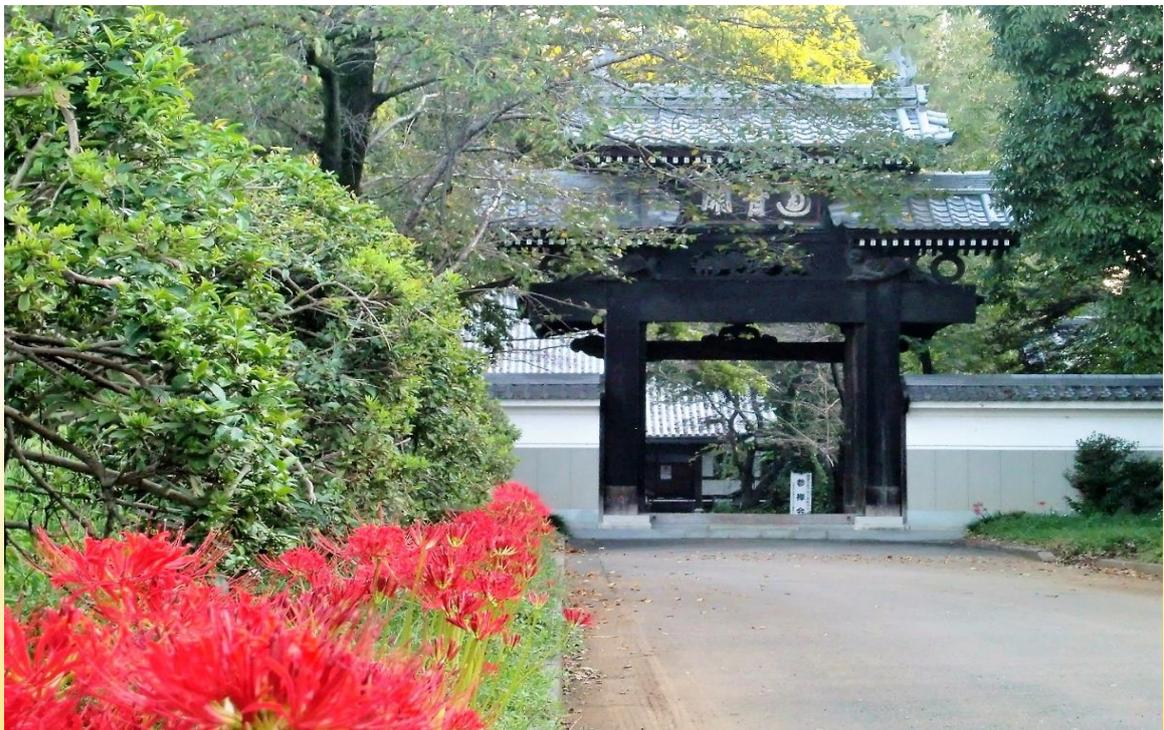




2017年 秋季号

平成29年11月発行 通巻第7号

人生を拓く



(天岑寺の初秋/ 撮影:大竹五郎)

目次

- P2 … 第4回定期総会 6月2日に開催 会員102人が出席 全議案を承認
来賓のご挨拶 会長挨拶 平成29年度役員と体制
- P4 … こんなこと あんなこと: 会員交流会/バーベキューの集い/市民大学学園祭・体育祭
/早大所沢キャンパス祭
- P5 … 人間探訪 第⑥回 華野新さん『青空の会』を明るい人柄でリード 喜寿
- P6 … ご無沙汰しております—あときの先生は今。 第⑦回 レクリエーション学科 伊東トシ子先生
- P8 … 意識調査「同窓会についてのおたずね」結果詳報⑤ 「自由回答」の主なご意見
- P12… そうだったのか 狭山の現代史概説 第②回「ジョンソン基地」中山眞男
- P14… (全面広告/埼玉石心会病院)
- P15… 活動支援・クラブ活動 会員募集中! 3団体と14クラブの紹介
- P16… 告知板 編集後記 / 同窓会ホームページ案内

「さやま市民大学同窓会」は皆様の貴重な会費で運営されています。

第4回 定期総会が開催される 6月2日

会員102人が出席し、委任状提出が226人 全議案を承認



さやま市民大学同窓会の第4回定期総会が、6月2日の13時から狭山市市民交流センター1階のコミュニティホールで開催された。

会員の出席者は102人で、委任状提出が226人あり、合わせて328人は会員総数528人の62%に当たり、総会成立の条件である過半数を満たした。

総会では中嶋亨会長の挨拶と所信表明があり、来賓として小谷野剛市長、齋藤誠市議会議長、小山周三さやま市民大学長の3氏からご挨拶をいただき、土田博さやま協働ネット代表、濱田美佳市自治推進課長、田中筆夫市社会教育課長の3氏が紹介された。また、同窓会側の来賓として、嵯峨座晴夫名誉会長、山川昭吾初代会長、諸井寿夫前会長が出席した。

次いで議長に麦生田栄理事を選出、議案審議に入る。第1号議案の平成28年度事業報告は拍手で承認され、28年度収支決算報告は、収入908,683円（前年繰越金314,040円）、支出541,533円（次期繰越金214,040円）であった。中山眞男監事の監査報告は、これを拍手による賛成で承認された。

次いで第2号議案の平成29年度事業計画(案)および収支予算(案)が承認される。予算は収入814,440円、支出814,440円(次期繰越金264,440円)となっている。

第3号議案の平成29年度の役員選任(案)として監事の中山眞男、橋本光明の両氏の退任と、土田博、矢馳一郎の両氏の監事就任が承認され、役員体制と役員の紹介があった。

これで、全議案が拍手で承認され、14時45分に総会は無事に終了した。

第2部として、会員交流会が94人の参加で15時から同会場で実施。嵯峨座晴夫名誉会長の乾杯のあと、アトラクションとして会員の藤井晃さんの落語や「おやじバンド」の演奏と合唱などがあった。

■来賓のご挨拶■

小谷野剛狭山市長 今は狭山市も高齢化が進んでいますが、元気な同窓会の皆様には、健康づくりや学校支援等でお世話になっております。高齢



化を受け入れ、経験豊富な皆様の能力をお借りして、次の時代の狭山の街づくりに役立たせていただくのが、私たちの責務だと考えています。まず、国や県の平均よりも低い狭山市の小・中学校の学力を伸ばしたいと思っています。4月の全国学力テストでは、昨年の狭山市はオール赤と悪かったのが、今年はすべて青になった学校が小中ともに1校ずつ現れたのはとてもうれしいことでした。これは皆様のご尽力のおかげと思っています。これからもすべての小中校の学力の向上を

目指します。国や社会のせいにするのは無責任です。

狭山ができればどこがやるのだとの気概を持って、皆様の力をお借りしながら、1つ1つに取り組む所存でおります。

齋藤誠市議会議長 私は中学と高校の同窓会で幹事をしていますが、そこで出てくる話といえば、子供と病気のことばかりです。狭山市も超高齢社会となっていますが、その中でさやま市民大学同窓会の皆様は、元気で狭山を盛り上げて活躍されていることに、とても喜ばしいことと思っております。この同窓会で、「狭山を元気にする」



という活動をされている皆様方が、ますますご健勝で活躍されることを念じています。

小山周三市民大学長 同窓会の意識調査で、会員の平均年齢が73歳、その内の9割以上が日常生活に支障なく、健康に暮らしているとのこと。他ではこんな数値は出てきません。如何に外に出て学び、地域に貢献して活動することの大切さの表れだと思います。元気な高齢者に共通していることは、地域に自分なりの役割があり、自分を必要としてくれる人と場所のあることが大きいのだそうです。これからも益々頑張られますように。



会長挨拶

本日は多くの会員の皆さんにご出席いただき、さやま市民大学同窓会の第4回総会を開催できますことに、心から感謝を申し上げます。そしてまた、ご多忙のところをご参列くださいましたご来賓の皆様方には、日頃の温かいご支援と合わせまして、厚くお礼を申し上げます。

小谷野剛市長様には、私ども同窓会に対してのご理解と格別なご高配を賜っております。さやま

市民大学長の小山周三様には、これまでの4年間に同窓会と市民大学の間で、いくつかの課題が生じましたが、それを克服すべくご協議をいただき、今では友好的な協力関係にあります。さらには、さやま市民大学の運営を司る協働ネット代表の土田博様には、同窓会の役員をお願いしたところご快諾いただき、今期から監事として就任いただく予定となっております。皆様には改めて心からの感謝を申し述べます。

このような経緯を踏まえての29年度の同窓会は、市民大学の講座運営のお手伝いとか、講座の講師としても積極的に参加させていただき、更に協力を密に致したいと思っております。

振りかえれば、「SSCC同窓会」を解散し、その日に「さやま市民大学同窓会」の立上げという変則的な2つの総会を開催して、今の「同窓会」が誕生しました。それから早や4年が経ち、この間、同窓会の運営は数々の大きな変化に戸惑いながらも、会則に定められた事業の目的から逸脱することなく推進して来られたのは、ひとえに多くの会員の皆様方のご理解、ご協力の賜物と、お礼を申し上げます。

さて、同窓会では昨年の11月～12月にかけて、全会員を対象とした意識調査『同窓会についてのおたずね』を実施しましたが、回収率が34.4%という多

くの皆様の協力を得ることができました。ありがとうございました。いただいた貴重なご意見は、今後の同窓会運営に役立たせてまいります。

その調査結果から「会員のプロフィール」をみますと、会員の平均年齢は男性が74.4歳、女性が71.6歳で、男性の平均がほぼ「後期高齢者」です。男女合わせて80歳以上が13%と1割を超えています。そして家族構成では「配偶者と2人」が最も多く59.9%、

「1人住まい」が9.0%と1割近くあり、合わ

せて家族は1人か2人までがほぼ7割にもなるのです。

このように同窓会は「高齢者」で構成される団体ではありますが、その健康状態を伺うと、「健康」が51.8%と半数を超え、「日常生活に支障がない程度に健康」の39.7%と合わせると、「健康な人」が実に91.5%と9割を超えている

のです。

このことは、高齢者ではあっても、豊富な経験や知識、技術などの潜在能力を有した人材からなる集団だと理解できます。都の健康長寿医療センターの調べによると、積極的な社会参加の有無で健康状態に大きな影響があると出ています。

同窓会の果たす役割も重要になりますが、先の意識調査での「同窓会の満足度」は、「満足している」が24.5%と4人に1人に留まり、「満足していない」が18.6%とほぼ2割ありました。「満足」が半数にも満たないのは私どもの努力不足と認識しており、課題も見えてきております。ほかは、「どちらともいえない」が53.8%と半数を超えています。

来年は「さやま市民大学」と「さやま市民大学同窓会」は、ともに設立5周年の年に当たります。それを視野に入れて、市民大学側との一層の連携を強めるとともに、地域との連携を図りながら社会活動に邁進することをお約束して挨拶いたします。

地域との連携を図りながら社会活動を



中嶋亨会長

■平成29年度役員と体制

◆理事 (20人)

荒井茂夫・覆平芳恵・印牧秀子・小林宏子
佐藤武・鈴木強・高野優子・登坂セキ・中岡義
中嶋亨・中山啓子・野地秀多朗・西角経一 (新任)
花倉ケイ子・細井弘子・水村美江子・六車徳誠
麦生田栄・三保谷房子・横田桂子

◆監事 (2人)

土田博 (新任)・矢馳一郎 (新任)

●退任理事／高羅尚典・山下則雄

●退任監事／中山眞男・橋本光明

■役員体制

会長／中嶋亨

副会長／細井弘子・鈴木強・野地秀多朗

事務局長／高野優子 次長／荒井茂夫

会計担当／印牧秀子

事業推進室長／荒井茂夫 副室長／西角経一

広報・広聴委員会委員長／中岡義

活動部会担当／細井弘子

HP担当／麦生田栄

◆追加/新任理事 (7.27付) 矢野公正

こんなこと あんなこと

同窓会がからむニュースから



■ 同窓会 会員交流会 6月2日 94人が参加
第4回定期総会の第2部として、「会員交流会」を開催した。

■ 第4回 市民大学体育祭 6月24日
今年は同窓会単独チーム(35人)で参加。2連覇を達成。



■ 同窓会主催 「福祉でまちづくり」講座
9月14日 社会福祉会館 48人が参加
講師は社会福祉協議会の天谷都紀子主査。のち、参加者で「地域福祉で何ができるか」をテーマにグループワークを。



■ 同窓会主催 「バーベキューの集い」
10月6日 智光山公園 54人が参加
公園内のキャンプ場で開催。バーベキューのほかにはピザ、流しソーメン、とん汁、飲み物なども。



■ 第4回 市民大学学園祭 10月21・22日
2日とも雨にたたられるも盛況に開催。テーマは「人と地域をつなぐ学びの精華・競演」。同窓会の多くのクラブが参加。



■ 早稲田大学所沢キャンパス祭 10月29日
大雨に抗して焼き鳥は順調に。凧作り教室も例年通り開催。



人間探訪

『青空の会』の代目会長

第⑥回 **はなの あらた**
華野 新さん

この会報の6ページに「レクリエーション学科」の伊東トシ子先生が登場されているが、今回のこの欄のゲスト・華野新さんは、この学科に第4期生として2004年(平16)に入学されている。その前年の03年に、この学科の修了生を主体に『青空の会』が発足したが、華野さんは学科修了とともにこの会に入会した。そして、現在はその第六代目会長である。どういふ方なのか、お話しを伺った。(取材・横田桂子 構成・中岡義)

『青空の会』を 明るい人柄でリード 喜寿

とにかく、「明るく健康的な笑いをされる方」(伊東トシ子さん談)なのだ。亡くなられた奥様は日本舞踊の師匠をされていたが、「奥様はいつも笑顔の方で、笑いの絶えないご家庭でした。踊りの発表会のときには、ご主人はいつもかいがいしく手伝われていました」(2期先輩の堂園治枝さん談)という。

1940年(昭15)1月、長崎市に生まれる。今年喜寿。地元の商事会社に勤めていた20歳の時に、会社の東京進出で上京したが、後に奥様となられる同僚の女性が追っかけて上京。23歳で結婚して、小平や豊島区を転住したが、狭山・中央に定住して38年になる。一男二女のお子様と4人のお孫さんに恵まれ、今はお孫さんと3人暮らしである。

62歳でリタイヤ。04年に「レクリエーション学科」に4期生として入学。その動機は、当時、ボーイスカウトの活動に携わっていたが、何か役立つことがあるのではと、奥様とその友人の勧めもあり応募する。05年の修了とともに「青空の会」に入会。現在は六代目会長を務め、今年で4年目となる。

ところで、「青空の会」とはどのような会なのか。活動は多岐に渡るようなので、華野会長にかいつまんで紹介していただいた。

設立は2003年(平15)4月で、SSCCの「レクリエーション学科」の修了生を主体に、「高齢者の仲間づくりと健康づくりの推進」を目的に誕生したボランティア団体。現在の会員数は100人ほどだが、常時活動はその7割ほど。活動の内容は、①「青空サロン」の開催。レクリエーションダンスや脳活性化トレーニング、歌、ゲーム、ストレッチ体操などを市内19カ所で展開。月平均20数

回を開催、16年度の参加総数は8,468人で過去最高だった。②元気塾(公民館事業・ホームデイサービス)へのスタッフの派遣 ③長寿健康部長寿安心課への協力 ④市からの受託事業で、さやま市民大学の「健康づくり・介護予防サポーター養成講座」を運営し、今年で4年目になる。

SSCCでは4期まで「公認レクリエーション・インストラクター」の資格が取得できたが、それ以降は、「青空の会」の月に1度の研修で指導法を習得している。

地域貢献ができることは、参加される方への奉仕だけでなく、最終的には自分自身の人生を豊かにする。1年間の学習では直ぐに指導者といかなくても、先輩の指導法を見習ううちに習得

できると強調される。

現在の会員はSSCC出身が35%で、元気大学・市民大学出身が65%。会員の高齢化も進んでおり、指導者の継承が課題の1つではある。

華野さんが「青空の会」の活動で得たものは、何を置いても楽しいことだと言う。それは、仲間が出来たこと、体と脳を動かせること、レクダンスなどが楽しめる。そして何よりも待っていてくれる人たちがいることである。

他の趣味としては、囲碁と朗読などだが、どちらもキャリアは長い。特に朗読は「サークル・朗読狭山」で最近まで活動していた。以前に演劇の経験があり、相通じるところがあると言われる。

華野さんの何につけても真剣な取り組みや、その明るい人柄から、会員からの人望も厚く、市からも信頼されているという。

そして、「すべてに現状維持が出来れば良い」との生活信条は、「“老後”についても変わることはない」と明るく言われるのだった。



ご無沙汰しております

第7回

—あのときの先生は今。

レクリエーション学科

伊東トシ子先生

かつてSSCCに「レクリエーション学科」があった。SSCCが開設した2000年の翌年を第1期として、05年の休講を挟んで08年まで7期続いた。この間の03年に、同学科の修了生で『青空の会』が結成された。その後、同会は11年に発足した「元気大学」の「健康づくり・介護予防サポーター養成講座」を運営し、14年に「市民大学」と合体してからも同講座は現在も引き継がれている(17年からは講座の冒頭に「西武文理大学提携」と付く)。

この「レクリエーション学科の開設に携わられたのが、当時、市高齢者福祉課職員の伊東トシ子先生だった。先生と学科ならびに高齢者福祉との関わりなどを伺った。(構成 中岡義)

【伊東トシ子先生のプロフィール】1944年(昭19)、埼玉県生まれ。1979年(昭52)に狭山市職員となり、高齢者福祉課生きがい支援担当だった01年(平成13)、SSCCに「レクリエーション学科」の開講を主導。03年に「青空の会」を発足させ、05年に定年退職。健康管理士、レクリエーション・コーディネーター、ケア体操&健康音楽体操指導員など。現在は「いとう創健教室 茶のみ塾」を主宰。

●失礼ながら、私などは「レクリエーション」と聞けば、「遊び」との感覚なのですが。

レクリエーションは英語でRecreationですが、

「Re」は「再生」で、「creation」には「創造・創作」の意味があります。戦後、三笠宮殿下が名誉総裁を務めて日本レクリエーション協会が設立されましたが、ここでは競技スポーツ以外はすべて「レクリエーション」の分野と考えられました。職場では効率を上げるために、学校では休み時間をみんなで仲良く、楽しくやりましょと働きかけたのです。そして一般社会では、特に高齢者の運動不足の解消と体力づくりに重きを置くようになりました。多くの人が積み重ねた歴史の中で、今の介護予防につながったのです。

●そうすると、「レクリエーション」には「遊び」だけでなく、「体力・仲間づくり」が共存しているということでしょうか。

もともとは疲れた体と心を再生するという意味でしたが、各種レクリエーションを取り入れることで、リフレッシュし次への意欲を再生するとの捉え方です。そして、それには多種、多様な種類と応用編があり、「仲間と楽しく」が重要なポイントになります。

●なるほど。それでは先生のお仕事と、その「レクリエーション」がつながるきっかけとなったのは何でしたか。

当時の町田潤一市長は、市長になる前から「狭山市レクリエーション協会」の会長を務められており、レクリエーションの重要性はよく理解

しておられました。市長就任後、SSCCを立ち上げるに当たり、レクリエーション学科の開講とその後の活用法に理解をいただき、翌年(2001年)からの開始につながりました。

●開講にあたって、先生が最も重要と考えられた課題は何でしたか。

長寿社会では、医療費や介護保険料等を含む財政の厳しさは言うまでもありませんが、それにも増して深刻

なのは、障害を抱えた高齢者がその苦しみに加え、核家族化による孤独感や寂しさ等で、どれだけ不安の中で生活をしなければならぬか想像を超えるものがあります。その一方で、障害の原因が「生活習慣病」に端を発することも少なくありません。もちろん加齢による老化も大きな原因ではありますが、また、ごく近い将来にリタイヤすることになる「団塊の世代」の人たちの、「生活習慣病の予防」や地域を離れていた会社人間の現役パワーを、如何に持続させ地域で活用できるかも大きな課題だと考えました。すでに多くの支援計画や対策が行われていましたが、その実施がどれだけ難しいか。普及推進への活用こそが、この「団塊の世代」のパワ



一の活用につながり、今後の高齢者対策に大きな力になるカギだと思いました。

●「団塊の世代」の取り込みを考えておられたのですね。先生と高齢者福祉との関わりは。

市の高齢者生きがい支援担当となったのは95年(平7)からの10年間でした。この間、高齢者の健康づくりと仲間づくり、それに生きがい支援を担当しました。老人クラブの運営、シルバー大学(寿大学)、高齢者のスポーツ等々に携わる中で、SSCCのレクリエーション学科はメイン事業となりました。

●SSCC開設の翌年4月に「レクリエーション学科」が開講し、第1期生として20人の定員に24人が入学しました。開講するに当たり、先生はその理念をどこに置かれましたか。



この講座の目的は、市と協働して市

民の健康づくりを推進するために、誰でもできる運動や介護予防、認知症等の知識を学び、自分自身の健康維持だけでなく、市内各所で行なおうとしている活動のスタッフになりうる人材を育成することでした。なお、開設と運営には「狭山市の高齢社会を考える会」の協力をいただきました。

●具体的な講座の運営は。資格を取るのに「試験」があったのですね。

いつでも、どこでも、誰でもが参加できるように重きを置きました。そして、生きがい、健康づくりの普及を目的に指導員の養成を目指すとともに、「SSCCで唯一資格の取れる学科」を謳いました。講座は理論が20時間、実技が30時間を必要としました。主任講師は私の恩師でもある日本レクリエーション協会公認コーディネーターの最所迪太先生(さいしょみちた)にお願いし、私は直接教壇には立たずにコーディネーター役に徹しました。リーダーとスタッフ2人は1期生が役割り分担し、2期目からは修了生がそのまま残りました。取得できる資格は「公認レクリエーション・インストラクター」です。それまで試験は埼玉県レクリエーション協会で行っていましたが、それを狭山市に移管してもらいました。

●最所先生はどんな方でしたか。

日本レクリエーション協会の指導者としてのライセンスが全指導者の5番以内に入られる先駆者でした。先生のお人柄はもちろんです、

豊富な人生経験を通してユーモアを交えながらの理論・実技の講義は抜群で、受講生からは大変好評でした。そのほかにも、高名な超一流の先生方に狭山までおいで頂けたのは、受講生には恵まれた環境で、幸運でもありました。

●2003年にレクリエーション学科の修了生を中心に「青空の会」が結成されましたが、その趣意は何だったのでしょうか。

リタイヤ後の長い人生を家庭や地域に戻り、如何に人生の総決算をするかが課題となる中で、「健康で・多くの仲間と・楽しく生きがいづくり」を柱にしました。ところが、いざ修了しても実践の会場がありませんでした。高齢者が歩いて行けるところでなければなりませんので、各地域にある神社仏閣の境内や公園をお借りしてご近所の方々に集まってもらいま

した。これが「青空の会」の名前の由来です。

これが「青空の会」の名前の由来です。

●5期目の05年は休講しています。入学者が減っていないのに、どうしてまた。

私は4期目の修了とともに定年になり退職しました。それまでスタッフは私が修了生のフォローアップをしていたのですが、これまでのようなお手伝いができなくなりました。地域に貢献している人材の安定的確保のためにも、継続の要望が関係団体から強くありました。それで、その業務は後に狭山市レクリエーション協会に委託して再開されたようです。

●現在の生活での体操との関わりは。

定年退職後も現在に至るまで、その活動は常に模索しながら継続しています。それは生活習慣病予防の知識とレクリエーションの採り入れによって、いかに高齢期の「生活の質」を向上させるかで、未だに到達点がみえないでいます。私的には、ストレッチ体操をメインにした音楽体操を指導する「茶のみ塾」を開設して、もう10年以上続けています。

●それにしても先生はお若く、澆刺としていらっしゃるんですね。同窓会の会員に健康法で何かメッセージをいただけませんか。

「日々の努力の積み重ね」が健康づくりの基本です。それは、昨日と同じ動きが出来るかを、毎日体を動かして確認することです。それには5つあり、伸ばす、曲げる、捻じる、回す、ジャンプする、です。もう1つ加えれば、深呼吸です。

「自由回答」の主なご意見

昨年末に実施した意識調査『同窓会についてのおたずね』については、その結果を同窓会報の前号(17年春季号)にその㊦の部として掲載しました。今号では、その㊦として「自由回答」の主なご意見を掲載します。(各問とも年齢順)

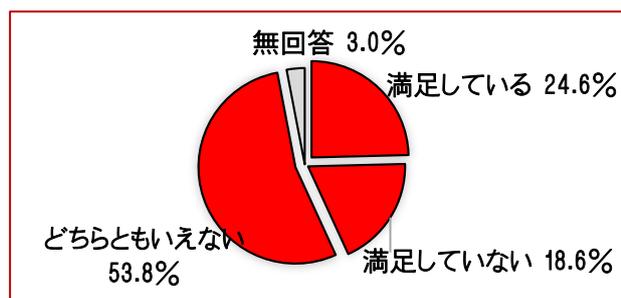
■ 調査の概要 ■

- 調査対象 / 2016年11月1日現在の同窓会員578人
- 調査方法 / 調査票による個別配布→郵送回収
- 調査期間 / 16年11月21日～12月27日
- 有効回収率 34.4%

1. 同窓会の満足度(問2)

【満足している】理由(問2-1)

- クラブへ入会していろいろな人達と知り合え友人もできた。人間関係が広がった(男66)
- 会員になりクラブ活動を通して仲間作りになり、少しではあるが地域に貢献できていると思う(女66)
- 同窓会全体としてはよくわからないが、クラブ部会は楽しめる(男68)
- ボランティアに参加しているので活躍している方々とふれあえるのがうれしい(女69)
- 広報誌や学園祭、体育祭などで活発な活動をしている点(男72)
- クラブに入会し、お互いの交流を図ることができる(男73)
- 健康体力の増進や余生の生きがいに役立っている。同窓会でのコミュニケーションは大切だ(女74)
- 会報の記事の内容が充実している(男74)
- 同窓会があることで今の自分の存在を感じる(女75)
- 外へ出るきっかけになり趣味を通じての仲間作りができる(男76)
- 老人の引きこもりを防ぐ力がある(男77)
- クラブ活動で多くの人との出会いがあり、サラリーマン時代とは違った交流がはかられている(女77)
- 同年代の仲間ができる(男81)
- 支援活動も各種クラブ活動も、高齢者の生きがいについて真摯に対応しているから(男83)
- 同窓会の活動が日常生活を活気づけている(男86)



【満足していない】理由(問2-1)

- 交流する場がない。総会以外に催物を実施すれば(男67)
- 同窓会といいながら同窓生じゃない方もサークルに入られている(女67)
- 同窓会の活動が会員個人に伝わっていないように思う(女67)
- まだまだ向上の力があると思う(男71)
- 同窓会として何をすべきかはっきりしない(男75)
- 市民大学修了生の方もたくさん入会してもらいたいです(女75)
- 同窓会に入っているのは大学を修了したから当然のように入会したが、ボランティアやサークル活動に追われ、クラブに入会もしたいが忙しすぎてできない(女75)
- 同窓会員も高齢化する現在、会が目的とする活動に寄与できなくなる。他に方法はないものか(女75)
- もっと自由に修了生同士が会える機会があれば良いと思います(女76)
- 早くに入会しましたので当時は同年齢の方ばかりで楽しかったのですが、この頃は若い元気な方が多く、お邪魔をしているような感じで、逆に溶け込みづらくなり、欠席ばかりしています(女76)
- 同窓会員が総会にもう少し出席するよう工夫してください(男78)
- 1年くらい前から年寄の楽しみを無視して市の方針に沿うもの、市に役立つもののみ補助を出し、我々

の本音を理解していない。老人が元気であれば市に協力もするし、医療費が少なくなるのを市は理解していない。これは大学も同じ（男80）

- SSCCと市民大学とでは「建学の理念」が水と油ほど異なる。それらの同窓会の統合は木に竹を接いだが如し。市民大学の志向には違和感がある。同窓会推して知るべし(女81)
- 高齢者に対する相談を受け入れるシステムが無い。2025年は問題研究会が必要（男82）

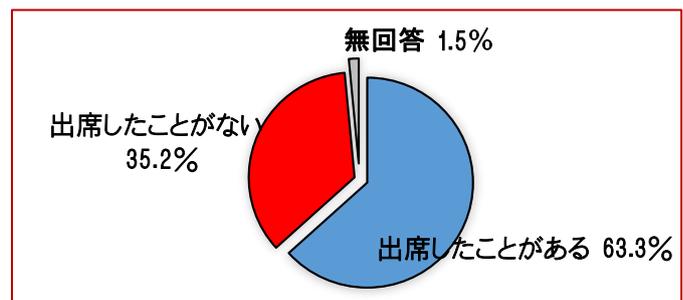
【どちらともいえない】理由(問2-1)

- 私にとって同窓会＝クラブ活動であって、それについては満足している。「同窓会」が何を指し、どのような役割を持っているのかわからない（男69）
- 6月の総会でクラブ活動の紹介があると思って出席してみたが何も無くて空振りとなり、良くわからないままで現在に至っている(男73)
- 同窓会の存在をアピールすること。各サークルの活動が地域に貢献していることをもう少し市民に（特に行政に）知ってもらう必要がある（男74）
- 年に一度は、春にハイキングなど、年末に忘年会などがあっても（男75）
- SSCCと元気大学の合同の同窓会は意味がない。向かう方向が違う（女75）
- 会員が同窓会の活動をあまり理解していないのでは。もう少しアピールした方が良いと思う（女76）
- 会自体というよりはむしろ会員自体に自覚が足りない気がします（女78）
- 歴史クラブのような活発な活動は好感がもてるのだが（男87）

2. 総会への出席(問3)

【総会に出席しなかった】理由(問3-1)

「出席したことがない」と答えた方の理由を順不同に列挙する。() 内数字は同じ意見の件数。
/他に予定があった(13) /日程が重複(7) /関心がない(4) /毎回同じで安定・無事に終わる(3) /仕事がある(2) /興味がない(2) /意義を感じない /入会したばかり /いつも同じ内容で興味が湧かない /同窓会の役割が不明 /諸都合 /身近に感じない /体調不良 /高齢のため /多忙 /通院 /知らなかった /クラブに入っていないので /その気にならない /役員に任せる /意欲がわからない /形式的な承認だけなら /知っている人が少ない /連絡がなかった /忘れていた /特に理由はない



3. 支援やクラブ(問5)

【支援・クラブに入っていない理由(問5-1)

支援やクラブに入っていない理由を、年齢順に列挙する。

/現在はまだ仕事をしていて入ることはむずかしい。来年入る予定のクラブはある（男64） /時間がとれない（男64） /他の団体やクラブに所属している（男65） /以前は支援活動をしていたが、学校が統合されて無くなった（女65） /興味が持てない（男66） /パソコン学科が支援の会になったから(女67) /都合の良い時間帯のものがみつからない(男67) /とても入りたいと思っているが現在時間的な余裕がない(女67) /別のボランティア活動で忙しくしている（男67） /自分の活動している趣味などで十分間に合っている（男67） /内容が良くわからないし時間がとれない（男68） /自分が希望するクラブがない（男69） /今のところ仕事をしているので時間的に無理（女69） /忙しく自分の予定が立てられない（女71） /親の介護（女71） /昨年まで7年程学校支援（SSVC）に入っていたが趣旨が良く分からないと感じていたためやめました（男71） /自分の考えに合うクラブがない（男72） /日時等が上手くいかない（女72） /支援出来る程の技量も無く、入りたいクラブも見当たらない（男73） /他にもボランティア等をやっており、そのうちクラブにも参加したい（男75） /人間関係に気づかいたくない（男75） /ボランティア活動が忙

しくなり時間が取れなくなった(男75) / 時間的に困難(男75) / 時間がない(女75) / 同好会がある(男76) / 日程が合わずクラブに参加できなかった。現在は同窓会と関係のない支援を行っており時間がない(女76) / 他のサークルで忙しい。学校支援は2年前まで入っていたが連絡が来なくなったので卒業したと思っている(女76) / 他の支援活動をしているから(男78) / 体力的に続かず。また魅力的なクラブがない(男79) / 自分の家の仕事が忙しい(女79) / 高齢(女80) / 体調不良(男80) / 齢を取りすぎた。自分で満足出来るものがないし人にも迷惑かけられない(男82) / 体調を崩して参加不能になった(男87)

4. 希望の支援やクラブ(問6)

【開設希望の支援・クラブ】(問6)

今あるクラブとは別に、こんな支援やクラブがあれば入りたいと思う希望を挙げてもらった。()内数字は同一の件数。

/ グランドゴルフ(5) / 麻雀③ / 書道(2) / バドミントン(2) / 将棋 / 読書 / 漢詩を読む会 / 俳句や川柳の同好会 / 文学クラブ(短歌、川柳) / 音楽鑑賞の会 / 三味線や二胡等の簡単な楽器 / ソバを楽しむ会 / 料理 / 音響クラブ / 海・川釣り / 古道巡り / A I 研究会(テーマCA) / ロードサイクル(自転車) / フットサル / ボーリング / 社交ダンス / 体操 / ストレッチ / 低山の山の会 / 平地ウォーキング / トレッキング / 防災関連の運動 / 子供の貧困を助ける活動や消費生活支援活動 / なにげないお茶のみ会 / 月に何度か高齢者の集いをもちたい / さやま市民大学に相談したところ、初めての語学勉強の方は人数が少ないので少し語学の出来る人の募集なのだと / 狭山茶を楽しむ会(仮称)

5. 新規開講の希望(問9)

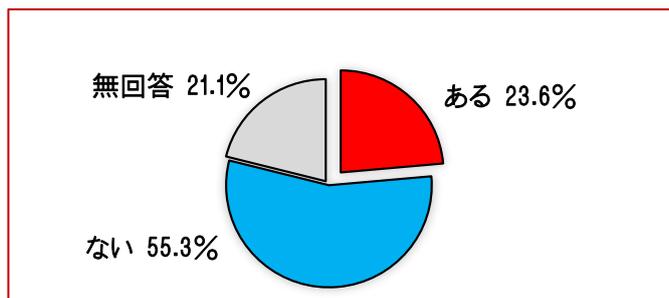
【開講を希望する講座】(問9-1)

新規開講の希望がある方に、その内容を伺った。()内数字は同一講座の件数。

/ 中国語(2) / もの作り(2) / 文化(文芸)教養講座(2) / 文学講座 / 古典文学を読む / スペイン語 / フランス語 / イタリア語講座(イタリア文化、

イタリア料理) / 写真講座 / 終活講座 / 料理教室 / 楽器等の講座(ギター、ウクレレ) / 農業体験 / プログラミング入門 / 老老介護問題 / 健康講座 / 認知症予防講座 / 食生活・料理講座 / パン作り / 病気の予防の基礎知識 / 海外旅行の会 / 現代社会論(哲学、宗教、歴史、文化を含む) / 日本の歴史(古代) / 世界、日本の時事問題の講座 / 災害に備えての講座、災害に会ったのちの復興についての講座 / 若者と自由に話し合いができる講座 / 若者支援 / 手話 / 体操 / ストレッチ / エアロビクス講座 / ヘルパーのような資格が取れる講座

- ロードサイクル。中高年に適したスポーツの自転車が交通法規を守らず事故を起こすこともある。正しい法規の理解と安全な自転車による活動の推進。その後児童などに交通安全について展開していく(男63)
- 学校支援を更に向上充実させて、支援力の個人差を少なくする講座。併せて英検等自身の資格取得もできる講座(男66)
- 消費生活で役立つ講座。日常に関わる食品表示の見方などを。オレオレ詐欺の防止にもつながる(男69)
- 地域で活動してくれるリーダー養成講座。高齢社会を迎えお互いが地域で支え合いが必要となることは自明。そのためには企画、実践できるリーダーが必要であり、それをフォローするのが市民大学の役割と考える。中途半端な形でなくしっかりとした体制で開講していただきたい(男74)
- 自治会会長の講座を作る。現在は自治会で決めている。そのため、守秘義務、民生活動、地域の状況等がきちんと理解されていない人が会長になっている(男74)
- 短期間講座でなく1年間じっくり勉強できる講座を増やしてほしい。高齢者対象であれば、遊び心も必要。「まち作り」の前に「人作り」、「人作り」の前に「健康作り」が必要ではないのか(男75)
- 地域ジャーナル講座は1年間ですべてをマスターするには内容が多すぎる。2年に分けては(女78)
- 「養成」ばかりでは楽しくない。もっと老後の生きがいになるものを(男78)



6. 同窓会報『人生を拓く』(問15)

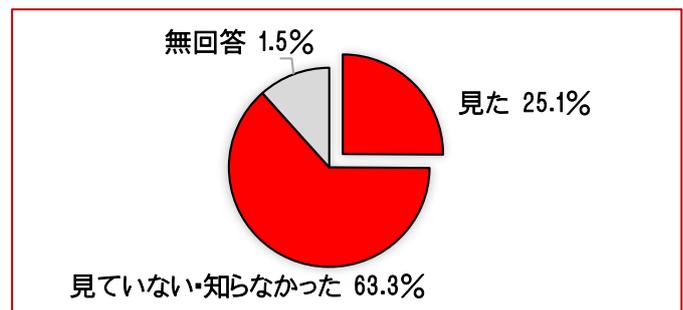
【『人生を拓く』へのご意見】(問15)

- 会報は年2回なのでスピード感、時間のズレがあるため情報展開はWebやSnsを利用すべき (男63)
- 「人間探訪」の欄でいろいろな人の人生、教訓を知ることが大事だと思う。同窓会に在籍している人を知ることができ良い企画だと思うので継続してほしい (男66)
- 表紙写真は狭山市にまつわる写真がのぞましいのでは (女67)
- クラブや支援の活動内容を紹介する事は必要と思いますが、その他の「狭山の現代史概説」などの多くの人が興味を感じるテーマを増やしてほしい (男67)
- 現行のページ数で満足しています。読む量として丁度良い。また、構成も現行で良いと思う (男73)
- 毎号楽しみにしている。秋号にぴったりの表紙は素晴らしい。イム・キルスンのインタビューは親しみが持て当時をなつかしく感じた。全体的に質の高い会報なのでこのままのスタイルで進めてほしい(女74)
- 編集者の素晴らしい能力がうかがわれ、いつも次号を楽しみにしています (男75)
- お金がかかるので難しいと思いますが、会報を広く市民にPRを (男75)
- 会員のクラブ活動、支援以外でも頑張っている内容を。『人間探訪』のようなクラブ以外の面を知ると更に頑張ろうという気になる (男76)
- クラブに入会するにあたり、活動内容や入会申し込み先などもWEBに掲載してほしい (男76)
- 意見欄、要望欄があると読者が何を考えているか解り、方向性を考える一助となる (男78)
- 会員の詩歌川柳などの投稿欄を設けることは、双方向のコミュニケーションのために必要と思う(男82)

7. H・Pの閲覧経験と関心度(問17)

【H・Pを見ての感想】(問17-1)

- 会報が見られるので、早く見聞が必要なニュース等は新着情報に載せるとよいと思う (男63)
- クラブ活動部会の記事等が最新版になっていない気がする。どこが「最新情報」か (男66)
- ほとんどのクラブの情報が古いままとなっている。各クラブの関心のなさが表れている (男75)
- クラブ活動は活発に動いているクラブとそうでないクラブがはっきり差がある (女74)
- むずかしいことですが、終わったことよりもこれからすることを載せたら良いと思います (女75)
- 前と変わった印象はない (男77)
- ダサイ！会員同士が自由に意見交換のできるページがほしい (男81)



【H・Pに関心がない】理由(問17-2)

- 今までのホームページがあまり面白くなかった (男65)
- ホームページの「さやま市民大学」は見るが、同窓会のHPがあるのを知らなかった (男66)
- そうか、9月以降みていなかったのか。毎日あるいは毎週見るほどのHPですか (男68)
- 今どのような活動をしているかを知りたかったのに (女69)
- 多様化している現代、一般的なホームページも関心があるので。同窓会は最新ニュース・開催の記事報告など見たいと思うし、期待している。ワクワクするような予告情報もあればなおさらよいです (女74)
- 同窓会報だけで十分だ (女78)
- 部会ごとに選任者を設置し、タイムリーな更新が必要では (男77)
- パソコンを卒業して現在は使っていない (女80)
- 知らなかったから (男82)
- HPの宛名がわからなかったから (男92)

そうだったのか 狭山の現代史概説

連載/ 第2回

ジョンソン基地

同窓会歴史クラブ 中山眞男

1. 米軍の進駐

① 1945年(昭20)9月、まず800人の米軍兵士が豊岡に乗り込んできた。兵士は皆、警戒心を表に出し、規律正しく慎重に行動した。タラップから降りた最初の兵士は、なんと日本人通訳の陰に隠れるように降りた、という伝説がある。まさか、日本人が襲ってくるかもしれない・・・と思ったのかもしれない。

ことほど左様に、米軍は日本人に相当気を遣った。「日本人は追い詰められると何をするか分らない」とでも聞かされていたのか。「沖縄戦の特攻カミカゼ」や歴史にたびたび出てくる「切腹ハラキリ」の雰囲気である。

米軍政府は日本占領の基本方針として、府県の政治・行政については「間接統治方式」がとられ、各地に存在する米軍基地の展開についても、あまり圧力をかけず現地行政とスムーズにいくよう、日本側の意向を配慮したようである。

② 米軍はまず基地のハードとして兵士と軍家族用の住宅、道路、電気・水道等のインフラ設備建設を要求してきた。3,000人以上の現場労働者を集めるのは大変だった。東京、群馬からも人が集まり、空前の建設ブームに沸いた。

しかし、なぜか水源地は米軍ががちりと押さえた。この時から10年以上笹井ダム周辺は「日本人立入禁止」の札が立った。やはり、心の底では日本人を信用していなかったのだ。

やがて基地周辺には、集会場、娯楽施設、病院、郵便局、学校などすべての施設が整い、年末には米軍5,000人を含めて10,000人の街ができた。

③ 翌46年(昭21)2月、基地の名称が「ジョンソン基地」と改められた。その由来となったジョンソン中佐は、第2次世界大戦の名パイロットだった。終戦数週間後、ジョンソン中佐が大型機に搭乗し悪天候の中を飛行していた時、航空機が飛行困難な状況になった。不幸なことに当該機には搭乗者全員分の脱出用パラシュートは搭載されていなかった。中佐は、部下にパラシュートを与え脱出させ、最後まで航空機を操縦し続け殉職した。25歳の若さだった。米陸軍は、彼の勇敢な行為を讃えて基地の名称を「ジョンソン基地」としたのである。その後、米陸軍航空

部隊を母体として米空軍が創設され、ジョンソン基地は米空軍の基地となった。

2. 周辺地域とのふれあい

筆者(中山)は横浜生まれの横浜育ちである。この稿を書くに当たって基地の歴史に触れると、今から70年前を思い出す。終戦当時、小学校低学年であったが、基地の雰囲気は筆者の体験とあまりにも似ているからだ。アメリカは日本の復興、再生にいかに熱心に取り組んだかがよく分かる。

たとえば悪いが、戦争でコテンパンに傷つけたが、殺してはまずいので、懸命に介抱しているようだった。罪もない100万人の市民を空襲で殺し、生体実験のように原爆を2個も落とす。近くの熊谷では「ポツダム宣言」を受けたのに、8月15日の終戦の日に県下最大の空襲をしている。地元の人々は、「玉音放送を聞きながら空襲の火を消し続けた」という。

しかし、ステージが変わった。横浜の港には、これでもか、これでもかと食料、薬品、建築資材などが連日送り込まれた。赤ん坊のミルクから老人の食事まで、メイドインUSAの食品であふれた。

街に出ると、ジープが止まるごとに子供たちが群がり、チョコやガムが配られたが、狭山の街もまったく同じであった。年間行事のクリスマス、独立記念日、カーニバルなどには地元の住民が招待され、食べきれないほどの土産をもらった。

アメリカ人は個人・個人でみると、底抜けに明るく、親切である。そんな印象を抱いた人が多かった。休日には兵士たちが入間川の街に遊びに来る。買い物をしたり、街の行事にも参加し、フレンドリーな繋がりが見られた。

① そんな中である事件が起きた。入間川商店街の土産物店での、宝石の盗難事件である。犯人は間違いなく米兵であるが、騒ぎを起こせば店のイメージにも関わるので、店主は騒がなかった。ところが、それから何か月か経って、突然、米兵責任者が従軍牧師を連れて店頭に残り、米兵の盗難事件を詫言したのである。

事情はこうだ。本人はその後、他の基地に転任したが、ある日、教会の説教が終わって、突然、牧師に懺悔さんげをしたいとの申し出をし、宝石の窃盗

を告白したとのことである。本人は本心から反省しているの、許してほしいと。店主は納得し、許した。心が洗われる美しい話である。(津村節子『星祭りの町』から)

② 1950年(昭25)に朝鮮戦争が勃発した。当基地からも爆撃機が出撃し、韓国防衛に貢献した。

1. 連日、連夜、爆撃機が飛び立つので、その地響きのような騒音に悩まされた。

2. 飛行機の墜落事故が頻発した。特に52年(昭27)の金子村事故では17人が死亡し、付近が大火に包まれた。

3. 戦地から送られてくる^{おびただ}夥しい戦死者、戦傷者の対応に追われた。空軍機が着くたびに救急車のサイレンが聞こえた。病院に着くとすぐ生死を判断し、遺体は処理される。体を丁寧に洗い服を着せて化粧し、一人ずつ大きな布袋に納めていた。

4. 兵士の住民への犯罪、特に注目されるのは1958年(昭33)、19歳のロングブリー三等兵士が稲荷山駅に近づいた西武線にカービン銃で発砲し、乗客の学生(武蔵野音大生)を即死させた事件である。周辺の住民は騒ぎ、マスコミは大きく「ロングブリー事件」として取り上げた。しかし、裁判の結果、判決はわずか禁固10カ月であり、量刑に対する不満が多かった。

③ 最後に米軍の環境汚染がある。水富の古老に聞いた話。

——昔、入間川は今よりも広く、水深のある川だった。そして、ときどき筏^{いかだ}がたくさんの材木を流していた。自分たちは筏師が休んでいるときに、その筏に乗って、遊んだり、川に飛び込んで

泳いだりしていた。

しかし、占領軍が来てから、川は汚くなった。霞川を通して生活排水を流し続けたから、たまらない。人糞がプカプカ浮いているところを泳いだことを覚えているよ。また廃油を流すから井戸水まで汚染された。役所に苦情が殺到し、当局も大変困ったね。

3. ジョンソン・タウン

1956年(昭31)に入間市東町、行政道路に面した一角に約100戸の米軍ハウスができた。これがアメリカン・ビレッジ「ジョンソン・タウン」である。当初、中堅クラスの住居であったが、次第に横田基地への転居などがあって、空き家が目立つようになり、一部が日本人に払い下げられた。

まさしくこの時代、アメリカ文化に憧れた若者たちが全国から集まり、現在の「シェアハウス」が何軒か出来上がったのである。15畳程のリビングでは、ジャズ・ミュージシャンを目指す若者たちで、ドラムやピアノのうるさい音が一日中、鳴り響いたという。また、ジャズを教わり、米兵と一緒に歌う風景がよく見られた。

現在は40軒ほどのカフェ、美容・洋裁店などに改築され、入り口にはいつも星条旗が翻っている。

そして、1978年(昭53)に「ジョンソン基地」が返還されて40年、現在は隊員4,000人を超える「日本最大の航空自衛隊基地」として発展している。

●募集! 『そうだったのか 狭山の現代史概説』にご意見・ご感想・体験談などを、編集部へお寄せください。ハガキ、封書、メールで。宛先・アドレスは16頁下段に。

<紹介> 『星祭りの町』と著者・津村節子さん

——時代は戦争末期、両親を失った18歳の少女育子は姉、妹、祖母とともに、東京から母の実家のある入間川町に疎開してくる。4人はここで敗戦を迎え、進駐軍による町の変貌を目の当たりにする。私利私欲に走る軍人たち、米兵にぶらさがる厚化粧の女。日本はこのまま滅亡してしまうのか……。育子は、家計のために伯父が始めた進駐軍相手の土産物店を手伝ったあと、目黒のドレメに通い、卒業後入間川で洋裁店を開く。姉妹の協力もあって商売は順調だったが、向学の志消えず3年後に閉店し、高校側の計らいで卒業認定試験を受け、都内の短大に進む——。

この物語は、一人の少女が敗戦直後という時代をいかに生きたかを描く、津村節子さんの自伝的小説でもある。舞台は現在の狭山市入間川町で、1943年(昭18)から47年の社会情勢が克明に描写されている。主人公・育子は津村さんご本人。

『星祭りの町』の「あとがき」で津村さんは次のように書いている。今から21年前の1996年(昭41)だ。

「いま、地方を旅した折などふと足を踏み入れた町に、基地の名残りを敏感にかぎ取ることがある。だが、母の骨を分骨した寺と、美しい入間川が流れている町には、まるで歴史楼だったかのように基地の面影は何も遺っていない。……『狭山市誌』にも、狭山市立博物館にも、基地についての記述や資料は驚くほどわずかであった。私にあれほど強烈な印象を刻んだ数年間であったのに、地元の人々の心の中からも基地はすでに風化し始めていることを感じた」津村さんは1928年(昭3)に福井市生まれ。1965年(昭40)に『玩具』で芥川賞を受賞。川端康成賞、菊池寛賞など文学賞を多数。『星祭りの町』は1996年(平3)の刊(新潮社。文庫版も)。昨年(2016年)には文化功労者に選出される。夫は作家 故吉村昭さん。同書は中央図書館にある。(G)



いま求められる医療を もっと高めたい



埼玉石心会病院は、2017年11月1日(水)に新築移転開院いたしました。

急病に関しては「ER総合診療センター」が24時間365日断らない救急医療を貫きます。遠隔地からの急病患者の搬送、又広域災害に備えて屋上に大型ヘリコプターが離発着できるヘリポートも設けました。

成人病の大半を占める脳と心臓の病気に関しては低侵襲(患者さんの負担が少なく回復の早い治療)脳神経センター、心臓血管センターを設け世界最高水準の医療を提供できる体制を目指しました。

低侵襲脳神経センターでは患者さんの体にやさしい血管内治療を軸にしてあらゆる脳神経疾患に最高の技術をもって対処できるようハイブリッド手術室など施設面と一流のスタッフを充実させました。

心臓血管センターでは循環器内科・心臓血管外科を统一的にマネージメントし、患者さんにとって切れ目のない最高水準の医療を提供いたします。

これら、3つのセンターを軸に新しくなった埼玉石心会病院は総合的な診療科を網羅し、地域はもちろん全県民から愛される病院を目指します。

診療科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、
 糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、
 感染症内科、人工透析内科、緩和ケア内科、外科、
 呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科、
 乳腺・内分泌外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、
 形成外科、精神科、小児科、皮膚科、
 泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
 リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、
 救急科、麻酔科

シャトルバスを運行します

さやま総合クリニック
 さやま腎クリニック

〈新〉埼玉
 石心会病院

「埼玉石心会病院」と表示のあるシャトルバスにご乗車ください。

路線バスも乗り入れます

「狭山市駅西口」より、
 西武柏原ニュータウン行「埼玉石心会病院」下車(狭山 24 系統)
 「狭山市駅西口」より、
 サイボクハム行「埼玉石心会病院」下車(狭山 21 系統)



活動支援・クラブ活動 会員募集中!

同窓会の部会一覧です。関心がありましたら「連絡先」へお電話ください。

2017年11月1日現在

会員数は 全体(男・女)

支援とクラブ名	代表者	会員数	入会金	年会費	連絡先	電話番号
学校支援(SSVC)	諸井寿夫	389(215・174)	なし	なし	事務所(プラザ内)	04-2927-1395
	市内公立小中校で、①各教科の授業ならびに放課後・夏期講習で先生の手伝い(無償)を、②行政から受託して、休日に自主運営の各中学の放課後教室で学習指導(有償)を行う。					
狭山パソコン支援の会	北田勇	20(7・13)	なし	1,000	北田勇	04-2959-2899
	市内の4つの公民館と共催でシニアを対象に「初心者パソコン教室」を開催しており、今年度で16期目。27年度から市民大学協賛の「パソコン講座「初級」を担当し、28年度から「中級」も。					
福祉支援(チョコラの会)	大内輝夫	18(2・16)	なし	500	大内輝夫	090-4416-3619
	定例会は毎月第3火曜9時30分から社会福祉会館で。活動は各自が月1回～2回程度を都合のよい日程で。福祉施設や個人宅を訪問し傾聴を中心に、いろんな指導や手伝いを。					
SSCCウォーキングクラブ	木全英雄	111(53・58)	1,000	上期入会2000.下期1000	木全英雄	04-2955-0640
	県内や近県の低山・里山歩き等「安全に・楽しく・和やかに」がモットー。活動/年9回(貸切バス・電車ほぼ半々)、8.1.2月は自主。会報発行。⑨入会受付は従来の4月のみから通年に。					
手打ちそば・うどんを楽しむ会	元井一男	23(11・12)	なし	2,000	元井一男	04-2958-4146
	「そばグループ」と「うどんグループ」がある。実習と場所は、そばグループは第3金曜、うどんグループは第4金曜で、ともに9時～12時。会場はともに堀兼農業改善センター調理室。					
SC写真クラブ	戸田尚一郎	20(16・4)	なし	1,000	戸田尚一郎	04-2959-3412
	奇数月:例会、偶数月:撮影会。定例会は会員の作品を相互に鑑賞、批評とともに、講師の助言を受け技術の向上に励む。文化祭や中央病院での展示、各種写真展に出展し作品を公開。					
歴史クラブ	井口孝之	89(57・32)	500	2,500	井口孝之	04-2952-3361
	①定例会;毎月第2水曜 ②春・秋の見学会(5月・10月) ③各研究グループの活動(現在9グループが月1回の活動) ④地域連携活動(自治会と史跡巡りなど) ⑤学園祭、公開講座など。					
SSCCグリーンクラブ	長塩文良	60(51・9)	なし	500	長塩文良	04-2952-8675
	主な活動場所;狭山市近郊、埼玉県内、群馬県内。定例活動;春季・秋季(30回記念)コンペ。対外活動;狭山市ゴルフ協会市民コンペに。県内開催プロトーナメントへのボランティア参加。					
SCパソコンクラブ	鈴木怜子	12(8・4)	1,000	(半年)2500	鈴木怜子	04-2957-9814
	定例会;月1回狭山台公民館。Word&Excel の演習問題集・ドリルなどを使用。講師は持ち回りで前・後半各80分の2コマ制で。インターネットは常時接続可能。					
SSCC太極拳クラブ	荒井茂夫	30(18・12)	1,000	(毎月)1500	荒井茂夫	04-2954-1083
	健康医療体術「楊名時健康太極拳」の練功(主に中央公民館)。練功会;月4回(年間44回)の敢行。戸外練功や会員懇親会、新年会など会員同士の交流を図る。					
人間科学研究会	中山啓子	15(9・6)	なし	(隔年)1,000	中山啓子	04-2957-7714
	「脳科学」を中心とした著作の輪読会とその折々の話し合いをしている。10月からは『人工知能と経済の未来』(井上智洋著)を選び、人工知能はどのように進化するか?を勉強している。					
古典芸能愛好会	鈴木強	23(11・12)	500	500	鈴木強	04-2952-8617
	古典芸能の鑑賞等を通じてわが国古典芸能への知識・理解を深めるとともに、狭山市の文化活動の活性化に努める。都内の寄席や国立演芸場等へ出かける。					
うた声さりね(コーラス)	高須晴子	21(2・19)	なし	(半年)1,000	高須晴子	04-2958-5176
	定例会;第1・第3火曜に広瀬公民館で。四季の歌十年間歌曲を歌う。うたの上達より歌を楽しみ、仲良く。施設訪問ボランティアを実施し地域交流を。会員相互の親睦、健康増進。					
いきがい学科の会	木下清	105(69・36)	なし	500	佐野悠輔	04-2952-7117
	「認知症予防講演会」や「認知症サポーター養成講座」の開催。早稲田大学所沢キャンパス祭や市民大学学園祭に出店・参加。自衛隊入間基地見学会、NHK見学会等を開催。					
囲碁クラブ	山下邦夫	22(21・1)	なし	1,200	山下邦夫	04-2958-0906
	定例会;第1・第3・第5火曜(中央公民館)。毎回日本棋院普及員が2面碁で指導。市囲碁連盟等主催の諸大会参加。老人養護施設訪問。近隣市との交流会で親睦を深める。					
吹矢クラブ	野地秀多朗	22(15・7)	1,000	500	野地秀多朗	04-2950-5818
	定例活動;毎週木曜定例練習会。狭山台公民館、狭山台体育館、西武ハイツ自治会集会所。対外活動として各種大会参加、ボランティアで地域連携活動。暑気払い、忘年会(新年会)を。					
さやま卓球クラブ	小林誠一	23(10・13)	1,000	3,000	小林誠一	04-2959-6830
	練習会;月4回。第1・第3水曜と第2・第4金曜に、主に入曽公民館(13時～15時)で。初心者にはコーチによる指導と練習マシンによる基礎技術の習得で更なる技術の向上に努めている。					

後期開講3講座の募集状況

さやま市民大学では、平成29年度の後期開講講座として3講座が募集した。

募集状況などは次の通りである。

- **地域の防災リーダー養成講座**
入学者15人／定員25人
(土曜実施。開講 10月7日／閉講 2月9日)
- **身近なところでソーシャル・ビジネスの“種”を見つける講座**
入学者12人／定員20人
(隔週金曜。開講 11月17日／閉講 3月2日)
- **パパ・ママのお助け隊養成講座(学童期)**
入学者13人／定員20人
(金曜。開講 11月10日／閉講 2月16日)

【編集後記】

■昨年末に実施した意識調査『同窓会についてのおたずね』の結果は、前号(17年春季号)でその定量情報を㊤として報告しました。今号ではその㊦として「自由回答」での「主なご意見」を4頁にわたり掲載しました。意識調査での「自由回答」は数値化できない定性情報なので、ここではそのご意見を極力そのまま開示する手法を用いました。【(性年齢)】順に、相反する意見も混在しています。このなかから、現在の同窓会の「立ち位置」を知り、今後の進むべき方向を的確に探り出せるかが、同窓会の運営を委ねられた役員一同の責務です。会員の皆さんの更なるご意見をお願いいたします。

■『ご無沙汰しています』は、SSCCの開設(2000年)

の翌年からスタートした「レクリエーション学科」の伊東トシ子先生に登場いただきました。また、『人間探訪』は「青空の会」の華野新会長です。この会はレクリエーション学科開講の3年後に、修了生を中心に誕生したものです。この「レク学科」と「青空の会」が目的としたのは、自分自身の健康維持だけでなく、「地域活動に貢献できる人材を安定的に供給するための役割」を担うことでした。それから20年近くが経ち、ここに関係された方々が、地域に根を張られて活動されているのを見かけるのは、その目的が浸透している成果なのでしょう。

■前号から始まった『そうだったのか 狭山の現代史概説』はご好評をいただき、次号への期待も多く寄せられました。そこで今回の「ジョンソン基地」は2頁に拡大し、その当時の狭山を舞台にした津村節子の小説『星祭りの町』を紹介しました。津村さんの母の実家が入間川町で、その縁で祖母と姉妹の4人で入間川に疎開され、戦後も当地で自ら洋裁店を開かれたのです。市内のお寺には母の骨が分骨されていると聞きます。その津村さんは昨年の文化功労者に選出されました。しかし、この顕彰を『広報さやま』には1行の記述も、今もってありません。

■前号に引き続き埼玉石心会病院に出稿いただきました。本紙が最初に広告を掲載したのは16年春号のあさひ病院でした。同窓会運営が資金面でひっ迫するなかで、会報を発行する私どもにとって、地元企業に協力いただけることは、正直、ありがたいことです。あたらしい石心会病院は11月1日に市民会館の隣りに開院しましたが、この病院のモットーは「断らない医療・患者主体の医療」だそうです。地域医療に一層の貢献がなされることを願っています。(G)

■訂正して、お詫びします■ 前号(6号)にミスがありました。3ページの修了式の写真は裏焼きでした。

●同窓会の「ホームページ」もご閲覧ください●

さやま市民大学同窓会

ホームページへようこそ

アクセスの手順

- ① ヤフー、グーグル等の検索欄に「さやま市民大学同窓会」と入力して、「検索」をクリックする。
- ② 「同窓会概要ーさやま市民大学同窓会」をクリックすると、「ホームページへようこそ」が開きます。

さやま市民大学同窓会 同窓会報『人生を拓く』 2017年秋季号 通巻第7号

- 発行日 2017年(平成29)11月15日
- 編集 さやま市民大学同窓会 広報・広聴委員会
- 発行 さやま市民大学同窓会
〒350-1380 狭山市狭山台1-21 さやま市民大学事務局内
事務局/電話 090-3514-6002
E-Mail; nakajima.t@ae.auone-net.jp